

第9回大連日本商品展

劉 瑛

9月15～17日、大連で日本商品展が開催されました。22都道府県から200社近くの日本（日系）企業が出展し、バイオ、健康・長寿商品、電子医療機器、工芸品、建築設計、化粧品、食品日用品など多分野にわたりました。来場者は約6万1千人で、商談も1千件近くなります。2008年に始まって以来、累計40都道府県から2,500社の日本（日系）企業が出展し、来場者も26万人に達しました。

〈展示品の傾向〉

毎年見ていますが、今年は日常雑貨が驚くほど種類が豊富で、恒例の化粧品（フェイスマスクなど）はもちろんですが、容量の大きなシャンプー、リンスや、シップ、洗剤、鍋など、普段からある程度よく使われているものが揃っていて、本当に日本から買って帰る必要がなくなります。単価も日本で買うより10%くらいしか高くなく、例えば、馬油ボディソープ600mlが100元の1,500円です。

品物が揃っているブースの出展者は日本企業ではなく、中国での販売業者が多いようで、品物が揃っていて、来場者の目を奪っています。



〈中国への販路開拓〉

一方で日本からの出展企業は、中国での販売はこれからで、バイヤーとの商談を目的にしているため、品物の展示も限られていました。しかし、鍋や工芸品、海鮮原材料、健康食品など、中国では、まだ広く売られていない商品を扱っている企業が多く、今後の中国での進展が期待できます。

どこまで商談が成り立つかは企業の努力次第ですが、本展示会は一般消費者の来場が多く、市場調査、商品PRになります。加えて、日本での販売をしっかりと行い、日本に行った中国人観光客によく知ってもらうことが、中国市場開拓の早道かもしれません。